

学生海外調査研究	
中国における少数民族の親の期待と幼稚園選択-モンゴル民族を事例に	
氏名 烏日 吉木斯	人間発達科学専攻
期間	2015 年 8 月 18 日～ 2015 年 9 月 10 日
場所	中国内モンゴル自治区赤峰市
施設	モンゴル民族幼稚 2 園、漢民族幼稚園 4 園

内容報告

1. 研究背景と目的

内モンゴル自治区における幼稚園教育についての政策と規則は、中国の国全体の政策・規則等の下で、内モンゴル自治区の実態に即して定められ、実施されている。1990 年、「内モンゴル自治区幼稚園管理条例实施办法」が出され、その第十条では「幼稚園は共通語を使って教育をする。少数民族幼稚園は少数民族の民族語を使って教育をする。モンゴル民族幼稚園はモンゴル語を使って教育をする」と規定された。これによって、少数民族地域における幼稚園教育の民族語使用が法的に保障されるようになった。また、2001 年には、「内モンゴル自治区基礎教育の改革と発展に関する決定を実施する意見通知」が出され、民族幼稚園教育を優先、重点的に発展させることが強調された。「少数民族地域においては、既存の民族幼稚園を支え続け、地元の政府が投資して、民族幼稚園を設置し、民族幼稚園に就園を希望する保護者のニーズを満たさなければならない」と規定され、少数民族地域の子どもの幼稚園に就園すること、特に民族幼稚園に就園することが保障されるようになった。これらの政策文書を見ると、少数民族の幼児教育発展が法的に保障されていると言えよう。しかし、モンゴル民族出身の幼児の就園人数が増える一方、民族教育を受ける幼児人口の比率が減少している（ウリジムス、2015）。

中国における少数民族言語教育に関する先行研究を検討してみると、中国少数民族の言語の選択自由の真实性を保障するために国は重要な役割を果たす（例えば、桂木 2003、鳥力更 2013、格日樂 2006 フレルバートル 1997 など）という点については多くの研究が指摘している。モンゴル民族人口が 1980 年の 209 万 300 人から 2010 の 422 万 6,100 人まで増加しているが、民族教育を受ける幼児の比率が減少している（王牧遠、2011）。モンゴル民族が自分の民族語で教育を受けせず、漢語の世界に加わっていく社会的要因については、フレルバートル(1997)が以下のようにまとめている。第一は、改革開放以来、民族語の使用範囲が次第に狭くなってきていること、そして第二は、少数民族の子どもが民族教育を受けることが、社会的に十分重視されておらず、それに対するなんら具体的な政策がないこと、そして第三は、民族語での大学進学が狭くなっていること、民族語を捨てて、共通語で勉強していく傾向があること、第四は、モンゴル民族の子どもたちは二つあるいは三つの言語を勉強するためかなりの時間がかかり、負担が重くなり、その学習成績にも当然影響を及ぼす（そのため直接共通語で勉強する人もいる）、そして第五は、内モンゴル自治区の大学や専門学校などではモンゴル語で授業を受ける学部や研究科が少ない（あるいはまったくない）、ということである。しかし、国の役割のみでなく、それ以外の要因にも目を向ける必要があると考えられる。また、中国少数民族の学校選択についての先行研究を見てみると、小学校とそれ以上の段階での生徒や学生を対象にした研究がいくつか見られるが（例えば、張、1996、尹、2005 など）、幼稚園の幼児を対象にした研究はほとんどなされていない。そこで、少数民族地域の学校選択においては、幼稚園以上の段階の学校選択だけではなく、幼稚園選択についても研究する必要がある。

これまで報告者は、幼児の生活環境が民族語の能力にどのような影響を与えているかについて検討してきた。その結果、モンゴル民族幼児の民族語の能力が幼稚園選択¹によって変わってくること、漢民族幼稚園を選択するモンゴル民族幼児の母語能力が低いことが明らかになった。また、そもそも幼稚園の選択がどのような要因によって規定されているのかを内モンゴル自治区における幼稚園選択に焦点を当て、幼児の社会階層と言語問題が幼稚園選択に影響をしていることが明らかになった（ウリジム

ス 2014)。その結果は、以下のようにまとめることができる。まず、言語要因があげられる。内モンゴルにおける教授語が異なる二つのタイプの幼稚園を比較した結果、注目されるのは、二つのタイプの幼稚園の相違点である。幼稚園教育内容において、モンゴル民族幼稚園は民族語と漢語の両方を学ばせる「二言語教育」熱が高まっていると同時に、英語教育も重視されている。漢民族幼稚園においては、漢語と英語を学ばせ、民族語を教えず、英語教育への関心がより高い。このことから、モンゴル民族幼稚園の選択者が子どもの幼児期に母語の能力を身につけることを重視するが、漢民族幼稚園の選択者は子どもの幼児期から漢語と英語の能力を身につけることを重視している。次は、内モンゴル自治区におけるモンゴル民族幼稚園数は非常に少ないことが幼稚園選択にとって重要な要因である。2010 年に行われた第 6 回国勢調査によれば内モンゴル自治区の総人口は 2,470 万人で、その中で漢民族の人口は自治区総人口の 79.5%であり、モンゴル民族人口は自治区総人口の 17.1%であり、ほかの少数民族人口は自治区総人口の 3.4%である。これに対して幼稚園数を見ても、内モンゴル自治区の総幼稚園数は 2,039 ヶ所で、その中で、モンゴル民族幼稚園数(126 ヶ所)は内モンゴル自治区の総幼稚園数の 6.2%にすぎない。このことから、幼児の教育の場と機会において不平等があると言えよう。このような、幼稚園数の少なさが、幼稚園選択にも影響を及ぼしているものと考えられる。最後に、家庭要因が幼稚園選択の要因として重要である。父親の学歴が低い場合、家庭収入が高い場合、両親の民族構成は両親のどちらか一方モンゴル民族以外である場合、家庭での使用言語が主に漢語の場合は漢民族幼稚園を選択する可能性が高いといえる。

民族学校選択については、これまでの先行研究によれば、中国の少数民族言語選択の自由を実質的に保障するために政府が重要な役割を果たしていないと指摘されている。しかし、その一方で、モンゴル民族の人々は自ら民族教育を幼稚園の段階から放棄しているともいえる。モンゴル民族の人々はなぜ民族教育を幼稚園の段階から放棄しているのか、親の子どもに対する期待の観点からも検討していく必要がある。中国におけるモンゴル民族の教授用語の異なる 2 つのタイプの幼稚園の選択と親の期待について把握することを通して、親の子育て意識、幼稚園への保育期待、子ども将来の進学期待などが幼稚園選択に影響を及ぼすかを検討できる。教授用語の異なる 2 つのタイプの幼稚園の選択の原因として、幼児への親の期待が異なるということが仮説的に考えられるが、もしその関係・構造が検証されれば、中国における少数民族教育の質の向上、進学、就職の格差是正について、政策的インプリケーションを得ることができる。本研究は幼児への親の教育期待に注目することによって、少数民族幼稚園教育及びその後の教育に抱える問題を解決に参考に資料を提供するものとなる。

そこで、本研究においては、教授言語が異なる 2 つのタイプの幼稚園の実情を把握し、モンゴル民族の幼稚園選択には、幼児の社会階層と言語問題以外、親の幼児へ教育期待が影響しているか、親の幼児に対する教育期待の観点からモンゴル民族の幼稚園選択要因について検討した。

2. 調査とデータの概要

2.1 調査の概要

調査の対象者は、内モンゴル自治赤峰市のモンゴル民族幼児の保護者と幼稚園の園長(副園長、主任)などである。赤峰市は 7 旗・2 県・3 区を管轄する直轄市²である。モンゴル民族人口は全赤峰市総人口の 19%であり、内モンゴル自治区全体の民族人口比率と近いという点で全自治区を代表できると見なしうる。調査対象園は、モンゴル族の幼児が通っているモンゴル民族幼稚園と漢民族幼稚園である。本海外調査では当初、調査対象園は、モンゴル族の幼児が通っているモンゴル民族幼稚園 2 園と漢民族幼稚園 4 園³を代表として選出し、調査対象の人数は、2 つのタイプの幼稚園で通っている幼児の人数のバランスを考え、保護者 200 名程度、園長(或は副園長、主任) 6 名(1 つ園で 1 人を調査対象とする)を目標していた。最終的に、保護者は 180 名に質問紙調査を、園長 4 名にインタビューを行った。調査対象となった保護者は、幼稚園 6 園に通うすべてのモンゴル民族保護者である。モンゴル民族幼稚園 2 園での調査は、すべての保護者に書面での同意書を渡し、同意した保護者をすべて対象にした。漢民族幼稚園 4 園での調査は、園長の推薦や選択により、あらかじめ対象者を絞った上で、同意を求めた。

保護者に対する質問紙の内容は、①基本項目(幼児の年齢、性別、きょうだい数)、②家庭状況(両親の年齢、学歴、民族、職業、収入など)、③幼稚園選択について(幼稚園属性、幼稚園選択理由)、④子育て意識、⑤幼児の習い事について、⑥保育期待、⑦幼児の将来についての親の期待である。調査対象の幼児が全部モンゴル民族であったが、モンゴル語を分からない保護者が少なくない。そのため、質問紙は中国語(漢語)とモンゴル語(内モンゴルで使用されている旧モンゴル語)で書かれたものを使用した。

園長に対するインタビューの内容は、①幼稚園についての質問(園の環境と設備、幼児数、クラス編制、保育者数・資格・学歴・給料・雇用形態別、保育者としての経験年数、教育・保育の目標、保

育者を対象にした園内と園外の研修頻度、主催者、研修内容、保育者を対象にした園内と園外の研修頻度、主催者、研修内容など）、②親の期待についての質問（保護者は子どもを貴園に入園させる理由、保護者からの意見や期待など）である。

2.2 データの概要

2.2.1 保育者への質問紙調査概要

教授用語が2つのタイプの幼稚園の幼児の保護者への質問紙調査の概要は表1の通りである。モンゴル民族幼稚園は113名（幼児の性別：男57名、女56名）、漢民族幼稚園は67名（男27名、女40名）、計180名である。

表1 幼稚園属性と幼児の性別

			幼児の性別		合計
			男性	女性	
幼稚園属性	モンゴル民族幼稚園	度数	57	56	113
		幼稚園属性 の %	50.40%	49.60%	100.00%
	漢民族幼稚園	度数	27	40	67
		幼稚園属性 の %	40.30%	59.70%	100.00%
合計		度数	84	96	180
		幼稚園属性 の %	46.70%	53.30%	100.00%

本調査では、親の子どもへの教育期待についての質問は、「お子さんは習い事していますか」と「お子さんにはどのくらい上級の学校まで行ってほしいとお考えですか」という2つの質問をした。その結果が表2、表3である。表2をみると、幼児の習い事をしている割合は、漢民族幼稚園（64.2%）は、モンゴル民族幼稚園（33.6%）より高いことが分かる。表3をみると、親の幼児への進学期待は、モンゴル民族幼稚園と漢民族幼稚園両方とも「大学」と「大学院」を選択した割合（94.4%が）高い。2つのタイプの幼稚園を比較してみると、「大学」を選択した割合はモンゴル民族幼稚園（46.9%）が漢民族幼稚園（40.3%）より高い。「大学院」を選択した割合は、漢民族幼稚園（52.2%）がモンゴル民族幼稚園（48.7%）より高いことが分かる。

表2 幼稚園属性と幼児の習い事

			お子さんは習い事をしていますか		合計
			している	していない	
幼稚園属性	モンゴル民族幼稚園	度数	38	75	113
		幼稚園属性 の %	33.60%	66.40%	100.00%
	漢民族幼稚園	度数	43	24	67
		幼稚園属性 の %	64.20%	35.80%	100.00%
合計		度数	81	99	180
		幼稚園属性 の %	45.00%	55.00%	100.00%

表 3 幼稚園属性と親の幼児への進学期待

		お子さんにはどのくらい上級の学校まで行ってほしいと お思いですか					合計
		中学	専門学校	大学	大学院	その他	
		度数	幼稚園属性 の %	度数	幼稚園属性 の %	度数	
幼稚園属性	モンゴル民族幼稚園	0	1	53	55	4	113
		0.00%	0.90%	46.90%	48.70%	3.50%	100.00%
漢民族幼稚園	漢民族幼稚園	1	0	27	35	4	67
		1.50%	0.00%	40.30%	52.20%	6.00%	100.00%
合計		1	1	80	90	8	180
		0.60%	0.60%	44.40%	50.00%	4.40%	100.00%

2.2.2 園長へのインタビュー調査概要

インタビューを行った幼稚園の園長はモンゴル民族幼稚園 2 名（男性 1 名、女性 1 名）と漢民族幼稚園 2 名（2 人とも女性）である。4 名の園長とも経験年数は 10 年以上の 40 代の教員である。

幼稚園の保育内容について 4 名の園長の話をもとめるとモンゴル民族幼稚園の幼児の多くは、農村及び遊牧地域から来た幼児⁴である。モンゴル民族幼稚園は文字や数字を直接教えるのではなく、遊びや絵本を読み聞かせることを通して文字や数字の習得させている。幼稚園生活を通して伝統文化教育を行うことが幼稚園での保育の重要な内容である。伝統文化の教育は食生活、象徴物及び特産物、伝統遊びの形、もの作りなどいろいろな活動を通して教えられている。その中、モンゴル語やモンゴル伝統文化に配慮した設備を積極的活躍している。幼稚園で、モンゴル民族の伝統的移動式住居であるゲルなどの施設を設置しているほか、民族手工芸品、モンゴル字書道などを展示している。これらを通して子どもたちにモンゴル民族文化についての学習、体験する機会を与えることに力を入れている。漢民族幼稚園も文字や数字を直接教えるようになってきた。幼児の心身の発達や「遊び中心」を重視し、国内外の先進教育理念を学び、先進的な取り組みを行っている。例えば、モンテッソーリ教育法やオルフ教育法などを保育の中で活躍している。モンゴル民族幼稚園と漢民族幼稚園はどちらも幼稚園建設のハード面が充実しているが、ソフト面の充実が大きな課題となっている。例えば、幼児教育資格を持っている教員の割合が少なかったり、高い専門性を持った保育者が不足したりしている。

親の幼稚園への保育期待についてたずねたところ、公立幼稚園では、幼児の段階では文字を教えるはいけないという教育部からの規定があるが、早い段階から文字などを教えてほしいという保護者の声がある。こういう声は最近少なくなったものの、子どもに習い事をさせる親が多くなったという。

3. 今後の課題と予定

今後は、本海外調査で得られたデータを整理し、親の期待が幼稚園選択によってどのように異なるかについて統計分析を行う。分析結果は、国際教育学会において、「中国における少数民族の親の期待と幼稚園選択-モンゴル民族を事例に」と題し、口頭発表をする予定である。併せて学会誌への投稿を予定している。なお、報告者の博士論文のひとつの章（現地調査による検討）に位置づけられる。

4. 謝辞

本海外調査に対し、平成 27 年度「女性リーダーを創出する国際拠点の形成」プロジェクト「学生海外派遣」プログラムのご支援をいただいたことに心より感謝を申し上げる。そして、本調査のために、時間を割いてくださった幼稚園の園長、保育者の皆様、保護者の皆様に心よりお礼を申したい。

5. 注

1. 内モンゴル自治区におけるモンゴル民族幼児の幼稚園選択とは、幼児が就園する幼稚園を、保護者が教授用語を民族語とする幼稚園と教授用語を漢語とする幼稚園の中から選択することである。
2. 中国における省級行政区を示している。中国の行政区分は省級（省、自治区、直轄市、特別行政区）、地級（地区、地級市、自治州、盟）、県級（県、県級市、旗）、郷級（村、民族村）という4層の行政区からなる。郷級の下には村、社区が設けられている。
3. 1980年代前半には、内モンゴル自治区の農村・遊牧地域に小学校および小学校就学前クラスがおかれていた。1980年代後半から、農村・遊牧地域小中学校の分布を調整し、小中高校を廃置合併する政策が導入された。その理由が農村・遊牧地域学校の規模が小さく、学生数が少ない、教育資源が浪費になること、有資格教員が不足していること、教育経費が少なく、学校の設備も良くないことなどであった。2001年に、国務院は「基礎教育の改革と発展に関する決定」を発表し、農村学校の分布を調整する方針を示した。多くの農村の幼児たちが県（旗）の比較的規模の大きい幼稚園に集中し、1つの幼稚園に何百人の幼児がいることになったことである。モンゴル民族幼稚園の数が少ないため、幼児の数が多いため、2ヶ所の幼稚園を選択した。漢民族幼稚園の数が比較的に多く、このタイプの幼稚園に通っているモンゴル民族の幼児たちの数が分散しているため4ヶ所の幼稚園を選択した。
4. 農村及び遊牧地域から来た幼児たちの家庭は都市と農村（遊牧地域）の二重生活をし、生活環境、安全管理、家計負担などいろいろな問題に直面している。

6. 参考文献

- フレルバートル（1997）「内モンゴル自治区の民族教育をめぐる諸問題」『言語・国家・そして権力』pp. 91-105
- 格日樂（2006）「中国民族教育における教育自治権について：民族教育の使用言語文字と教育内容に対する自治権を中心に」『一橋法学』第5巻 第3号, 1041-1064.
- 桂木隆夫（2003）『ことばと共生』三元社.
- 岡本雅享（2008）『中国の少数民族教育と言語政策（増補改訂版）』社会評論社.
- ウリジムス（2014）「内モンゴル自治区における幼児の生活と民族語使用に関する研究」『平和構築分野における国際調査報告書；女子教育・基礎教育分野における国際調査報告書』, 33-46.
- ウリジムス（2015）「中国における少数民族の就園をめぐる現状と課題-内モンゴル自治区のモンゴル民族を事例に-」『人間文化創成科学論叢』第17巻, 217-225.
- 鳥力更（2013）「中国モンゴル民族学校教育とアイデンティティに関する研究」『佛教大学大学院紀要 教育学研究科篇』第41号, 1-17.
- 王牧遠（2011）『内モンゴル民族教育工作手冊』、内モンゴル教育出版社
- 尹貞姫（2005）「現代中国朝鮮族における言語問題と学校選択：延辺地域の言語使用に関する調査・分析を手がかりとして」『ことばの科学』第18号, 119-142.
- 張瓊華（1996）「現代中国における二言語教育と学校選択：チベット族出身中学生対象の質問紙調査を中心に」『東京大学大学院教育学研究科紀要』第36巻, 149-159.

うり　じむす／お茶の水女子大学大学院　人間文化創成科学研究科研究科　人間発達科学専攻

指導教員によるコメント

ウリジムスさんは、これまで、中国内モンゴル自治区をフィールドとして、就学前の幼児の言語環境・文化・生活環境が、子どもの言語発達（特に民族語能力）にいかなる影響を及ぼしているかを研究してきました。その研究の一つの知見として、モンゴル民族の幼児の言語発達には、親の幼稚園選択が深くかかわっていることを見出しています。具体的には、漢民族幼稚園を選択したモンゴル民族の子どもは母語能力が低いことを明らかにしています。

本調査研究においては、これまでの研究をさらに発展させるべく、教授言語が異なる二つのタイプの幼稚園（モンゴル民族幼稚園と漢民族幼稚園）での教育内容や実態を聞き取り調査によって明らかにし、親の教育期待との関連で分析がされています。本研究は、親の幼稚園選択に教育内容や園での保育のあり方が関わっていることを示唆しており、内モンゴル自治区における民族教育研究に新たな知見をもたらしていると評価できます。

（人間科学系・浜野隆）

Parents' Expectations and kindergarten school selection of minority in china -A case study of Mongolian people in Inner Mongolia-

URJIMS

The aim of this survey is to investigate how minority Parents' Expectations affect kindergarten school selection in china. This survey was conducted from August 18, 2015 to September 10, 2015. The subjects of the survey were the parents of ethnic Mongolian children aged between in the city of Chifeng in the Inner Mongolia Autonomous Region of China. Two ethnic Mongolian and four ethnic Han kindergartens were chosen as samples for the survey. The researcher surveyed 180 parents.